

NEWS LETTER

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 事務局 ■ 社団法人 長野青年会議所 内
Tel : 026-228-3260
<http://www.sekaisan-zenkoji.com>

小坂文部科学大臣を訪問

すすめる会活動の近況についてご報告
平成18年6月19日に当会の仁科恵敏会長、宮本忠長副会長、中島道生善光寺寺務総長、事務局の計6名が文部科学省大臣室を訪問し、小坂憲次文部科学大臣にすすめる会の活動についてのこれまでの経緯や今後の見通し、現在の主な動きなどについてご報告を行った。小坂文部科学大臣

からは、世界遺産の候補物件としてユネスコに推薦する暫定リストへの記載順序について触れられ、必ずしも順番ありきの登録ではなく、条件整備や合意形成がなされた物件を対象に登録をすすめるべきだとの見解を示され、現在、長野市教育委員会の調査委員会が行っている宿坊を中心とした伝統的建造物の実測調査を高く評価され、今

後の調査結果に大きな期待を示された。その上で当会幹部からは、調査対象地区が重要伝統的建造物群保存地区選定を受け、「善光寺一円」が世界遺産の暫定リストに選定されることを目指して今後も活動していく方針を示し、世界遺産登録実現に向けた今後の見通しなどについてさまざまな意見交換を行った。



小坂文部科学大臣への報告風景



小坂文部科学大臣に報告書を手渡す仁科会長

宿坊地区内の2つの伝統的建造物が保存されることに

—昨年度から実施されてきた調査結果によってその価値が新たに見直されていく中で、明治の大火の被害から逃れ、江戸時代からの形式を継承し、宿坊地区の歴史を知る上で貴重な建築物である「常徳院」が国の「登録文化財」に登録されることとなった。また「大本願明照殿」についても耐震性などの建物の安全性を考慮した保存改修計画が見直され、新たな機能を加えながら元の建築物を最大限保存していくこととなった。



保存改修することとなった大本願明照殿と御物見



「登録文化財」に登録された常徳院

伝統的建造物の調査委員会 中間報告

善光寺周辺宿坊地区の伝統的建造物の調査が実施される

平成17年7月～9月にかけて長野市教育委員会が設置した調査委員会によって、大本願をはじめとする16か所の伝統的建造物の実測調査が行われ、詳細にわたりその実態が明らかとなってきた。信仰の歴史によって支えられてきた宿坊地区は「門前町」として我が国を代表する独自の宗教的な景観が残されているが、本地区でこのような調査が行われることははじめて。本格的な実測調査が始まったことで、伝統的な建築物に対する保存意識と歴史的な景観の保全に向けた市民の関心が高まり、重要伝統的建造物群保存地区選定に向けて今後の調査に大きな期待が寄せられている。



調査風景

実測調査結果の中間報告会を実施

昨年度(平成17年度)に行われた調査結果について、すすめる会では平成18年1月27日に行われた、すすめる会総会において実測調査にあたった信州大学工学部土本俊和教授から、中間報告会を行なった。報告によると「3階建て木造建築物の集積度の高さは全国的にみて本地区を超える例がないこと」「信仰と密接な関係をもっていることで随所にその特徴が建築に表れていること」などについて高く評価された。あわせて世界遺産登録に向けた要点の整理についても講演いただき、会員からの関心を集めた。



すすめる会総会で実測調査の中間報告を行う土本先生

今年度中(平成18年度)に宿坊地区の実測調査を完了

平成18年5月23日「善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査委員会(委員長宮澤智士長岡造形大名名誉教授)」が行われた。委員会では昨年度の実測調査結果について報告が行われたほか、今年度中に対象地区すべての宿坊の実測調査を行う方針が示された。今後、調査委員会では実測調査に基づいた調査報告書のとりまとめを平成19年度中に行なう予定。長野市教育委員会では保存条例や保存計画などについても協議をすすめ、国が選定する「重要伝統的建造物群保存地区」に向けた申請の準備をすすめていく予定である。

パネル展による実測調査の公開

長野市教育委員会の主催により、今年度の調査報告についてその内容を紹介した「善光寺周辺たてももの調査パネル展」が6月12日～23日まで開催された。引き続き全ての調査報告が完了する来年3月末には「最終報告会」が開催される予定である。長野市では重要伝統的建造物群保存地区選定に向けてより多くの市民に善光寺周辺地区の文化遺産としての価値を紹介。これらのパネルは引き続き、市立博物館で巡回展示していく予定である。すすめる会ではこれに共催し、重要伝統的建造物群保存地区選定を通じて、日本政府がユネスコに世界遺産候補物件として推薦する「暫定リスト」に名乗りを挙げていくことを視野にさまざまな活動を展開していく方針である。



長野市役所2階市民ギャラリーにて開かれたパネル展

堂照坊

堂明坊

白蓮坊

正智坊

兄部坊

淵之坊

常円坊

隨行坊

寿量院

重要伝統的建造物群
保存地区の選定が
期待される

宿坊群

善光寺の
世界遺産登録に向けて

第4回

善光寺信仰の聖地と
世界遺産善光寺の世界遺産登録をすすめる会
専門委員長
市川 健夫

官寺並の規模をもつ善光寺

古代日本における仏教寺院をみると、法隆寺・薬師寺・東大寺など大きな寺は、律令政府が開設した官寺である。したがって藤原氏の氏寺であった興福寺を除けば、私寺の規模は小さい。鑑真が設けた唐招提寺は私寺であるから、薬師寺などの官寺に比較して規模が小さい。金堂の屋根を見ても、重層ではなく、単層であった。

白鳳時代(645年)に建てられた善光寺は、信濃国伊那郡麻績之郷(現飯田市座光寺地区)の豪族本田善光(よしみつ)によって創建された私寺である。善光の姓氏から善光寺と呼ばれるようになった。創建当初の善光寺は大きな伽藍(がらん)ではなかったが、善光寺信仰が全国的に普及するにともない、官寺並の規模をもつ大寺院になった。善光寺が1300年前の白鳳時代に建てられたことは、出土した白鳳瓦によって明かである。平安末期から阿弥陀如来に帰依して、来世には極楽浄土に生まれ変わりたいという浄土信仰が、貴族や武士階級のみでなく、庶民の間にも広がった。善光寺の本尊は阿弥陀如来であったため、その信仰は全国的に盛んになった。鎌倉幕府を開いた源頼朝は、善光寺仏を深く信仰していたので、建久6年(1195)治承3年(1179)に焼失した善光寺の再建を、信濃の武士団に命じている。建

久6年(1195)頼朝は再建された善光寺に参拝している。鎌倉幕府の公式文書である『吾妻鏡(あずまかがみ)』には欠落しているが、軽井沢の旧碓氷峠にある熊野神社には、頼朝の寄贈したという梵鐘(ぼんしょう)がある。また軽井沢町の借宿(かりやど)という集落は、頼朝が狩りをして宿泊したという伝説がある。このような史実や伝承から、頼朝の善光寺参拝は確実とされている。

時の権力者であった頼朝の力添えもあって、鎌倉時代の初期には、善光寺は官寺並みの大伽藍が造られていた。時宗の開祖一遍上人によって描かれた「一遍上人聖絵(ひじりえ)」と「一遍上人絵詞伝(えことばでん)」には、13世紀末の善光寺とその周辺の風景が写実的に記されている。両絵巻にみる善光寺の伽藍は、仁王のある南大門から左右に分かれる土塀(どべい)と山門からの回廊(かいろう)に囲まれ、その中に本堂がある。土塀と回廊の間に五重塔、僧坊・鐘楼(しょうろう)・鎮守社(ちんじゅしゃ)が立地している。また南大門の前には町屋が見られる。

鎌倉時代になると、極楽浄土で成仏するこ

とを願って、全国各地から多くの人たちが、善光寺にやってきた。その結果、善光寺の門前町が形成されたのである。

全国有数の大伽藍、善光寺

善光寺は創建以来、11回にもおよぶ大火によって焼失している。現存する本堂(如来堂・金堂ともいう)は、江戸中期の宝暦4年(1707)に造営された。この御堂の梁間(はりま)は23.7m桁行(奥行)は52.8m、建坪は1251.4㎡(379坪)である。木造建築としては奈良東大寺の大仏殿、京都の蓮華王院(れんげおういん)の三十三間堂に次ぐ大伽藍である。建築材は梁や桁には善光寺領であった地附山などの赤松を用いた。また柱には小海など南佐久の村々から桂材が伐採され、千曲川・犀川・裾花川を流送[管流し(くだながし)]して用いられた。現在大門町はじめ長野の市街地において、街路樹に桂が植えられているのは、このような歴史的事実にもとづいている。

なお境にある山門は寛永3年(1750)に、また経蔵は宝暦9年(1759)に、鐘楼は宝暦3年(1753)に造られた。しかし鐘楼は焼失して嘉永6年



雲上殿から見た善光寺と長野の中心街



玉照院

円乗院

威徳院

常住院

世尊院

蓮華院

尊勝院

常智院

教授院

吉祥院



(1853)に再建されている。仁王門は宝暦2年(1752)に造られたが、弘化4年(1847)の善光寺大地震で焼失し、元治元年(1864)に再建された。ところが、明治24年(1891)にまた焼けて、大正7年(1918)に再建されている。したがってその伽藍は100年に達しないが、中に祀られている仁王像は、高村光雲(高村光太郎の父親)と米原雲海の作である。20世紀初め大正初期の作品であるが、運慶に代表される鎌倉彫刻を思わせる傑作である。

善光寺の寺内には、大勸進に属する天台宗系の「衆徒」20院と時宗系の「妻戸」5院、浄土宗系の「中衆」14坊、合計すると39の院坊がある。いずれも江戸後期から明治・大正期にかけての歴史的な建物である。また善光寺に接して東部には、浄土宗の寛慶寺がある。このような寺内を含めて善光寺の伽藍は、「世界文化遺産」にふさわしい十分な内容をもっている。

伝統的景観を残している門前町

古代善光寺が造営されたころ、律令国家が開設した東山道支道が善光寺の東部を通っており、「多古(たご)」という駅家(うまや)が置かれていた。また江戸時代善光寺町には、北国街道が通り、善光寺の参拝客は主として北国街道と北国西街道(善光寺街道)でやってきた。

江戸時代大門町・横町・東町・西町・東の門・西の門・桜小路などは、善光寺の門前町として発展してきた。またこの門前町は宿場町と市場町を兼ねていた。これら門前町の町屋は幕末から明治・大正期にかけて建てられている。切妻の瓦葺き屋根、平入り、瀬木世造り(せがいづくり)、大壁造りの重厚な建物が多い。中には中村不折(ふせつ)が書いた明治時代の看板がいくつか見られる。大門町などは善光寺の門前町ということで、寺域とともに「世界文化遺産」の候補地区に入れるべきだと思われる。

善光寺裏山の文化遺産

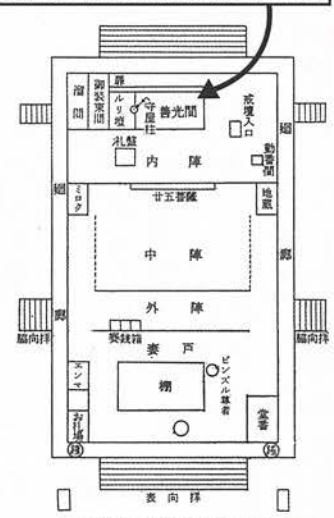
善光寺の西側に往生地丘陵がある。ここは信州りんご[西洋苹果(りんご)]栽培の発祥地として知られている。高燥な洪積台地と寡雨気候はりんご栽培の適地である。この往生地の最西端に浄土宗の往生寺がある。この寺は鎌倉時代の親孝行者として知られる石童丸伝説で有名である。往生寺から善光寺平(長野盆地)の展望は絶景で、善光寺の伽藍を間のあたりに望むことができる。また浅間山の噴煙が見える「名勝」だといわれてきた。

往生寺の北に靈山寺があるが、ここに五輪平という地籍があり、長野西高で出土した五輪塔をはじめ、このあたりにあった五輪塔が集めら

れている。五輪塔は中世善光寺にやってきた武士たちが、先祖と自分の成仏を祈って建てたもので、熱烈な善光寺信仰があったことを示している。雲上殿(善光寺納骨堂)が、昭和24年大津市の石山寺多宝塔を模して造られた。

明治36年(1903)中世の横山城跡に城山公園が開設された。明治41年にはここで一府十県連合共進会が開催されたが、現在長野市における桜の名所になっている。前述した往生寺・五輪平・雲上殿・城山公園などは、善光寺と深い関係があり、世界文化遺産候補の地区指定をすべきだと思われる。

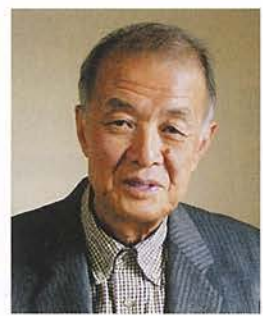
内陣の「善光の間」に、本田善光と妻の善佐の三人の像が安置されている。



▲善光寺の本堂内部



▲善光寺の境内



市川健夫 (いちかわ・たけお)

東京学芸大学名誉教授・理学博士(地理学)
1927年小布施町生まれ

ブナ帯文化論・青潮(あおしお・対馬海流)文化論・信州学の提唱者
東京大学講師・東京学芸大学教授・信州短期大学学長・長野県立歴史館館長・長野県文化財保護審議会会長などを歴任
第9回風土研究賞・第4回地域放送文化賞・第13回信毎賞



2005年度活動報告

①推進会議を発足

調査委員会設立などを受けて、当会の今後の活動内容等を企画・運営してゆくための組織体制が必要であると判断し、5月に「推進会議」を設立しました。

「推進会議」は、「専門委員会」に所属する委員を始め、善光寺事務局役員の方々や、地元の街の代表者らに委員としてご参加いただいております。また、長野市教育委員会文化財課を始めとする行政担当部署からオブザーバーとしてご出席いただき、世界遺産登録を目指す地区内の方々との連携を強化し、意志の疎通を図っていきます。会議は月に1回の開催を定例としています。

また、推進会議の円滑な運営のため幹事を数名おき、会議開催前に幹事会を開き、議事の取り決め等の作業にあたりました。推進会議幹事は、長野青年会議所の歴代担当委員長らを中心に任命されております。



③新規パンフレット制作

11月には、活動の充実に伴い新たにパンフレットを制作しました。「どうして善光寺を世界遺産登録するのか」。一番重要なこの問いに対し、「日本人の心のよりどころ」「日本人の宗教観の象徴」というポイントを明確に伝えている内容となっています。善光寺案内所・長野駅観光案内所などで配布しています。



②三門にPR懸垂幕掲出

8月に、工事中の三門にPR懸垂幕を掲出しました。年間600万人を超える参詣者に当会の活動を認知していただける非常に有効な事業です。



④善光寺サミットと共催による大規模な講演会開催

11月17日(木)ホテル国際21にて、1000名を超える来場者を迎え、女優の真野響子氏と当会副会長・推進会議議長の宮本忠長氏、両名の対談形式による講演を開催しました。対談では、世界遺産登録の活動内容を一般の方々にも理解しやすい切り口でお話いただき、当会活動の認知が高まった機会となりました。



2006年度事業計画

暫定リストへの登録に向けた活動の推進

- 推進会議の月1回開催
- 調査委員会が行う宿坊等の建築物調査への支援・協力
- 2006年度中に、文部科学省、文部科学大臣への訪問実現
- パンフレットや資料類の英訳化推進
- 「専門委員会」を開催し、専門委員による学術的な調査・研究を支援し、当会の活動内容の充実をはかる

一般市民への啓発活動

- メディアを使ったPR
- 2005年度宿坊調査報告のパネル展示会への共催
- ニュースレターの発行
- サポーターの募集

会員募集活動

- 会員数拡大を目指し、募集活動の充実をはかる



推進会議メンバー（一部委員欠席 6月20日撮影）

すすめる会会員一覧

すすめる会は、ご覧の会員の皆様方からの年会費によって活動しております。

朝日税理士法人	信州製袋	長野ケーブルテレビ	長野通運	ペイクックコーポレーション
朝日病院	信防工ディックス	長野県経営者協会長野支部	長野都市経営研究所	北信土建
植木商店	信毎文化事業財団	長野県建設業協会長野支部	長野トヨタ自動車	ホテル国際21
エーシー工設計	鈴木土地	長野県建築士事務所協会	長野トヨペット	増田商会
FMぜんこうじ	炭平コーポレーション	長野県社会保険労務士会	長野西ロータリークラブ	松澤工業
FM長野	駿専・青木商店	長野県信用組合	長野日産自動車	松代商工会議所
エムケー精工	善光寺	長野県信用農業協同組合連合会	長野東ロータリークラブ	松田産業
おらが園	善光寺まちづくり会議	長野県中小企業団体中央会	長野放送	マツヤ
笠原十兵衛薬局	損保ジャパン長野支店	長野支部	長野ユネスコ協会	マルイチ産商
カシヨ	第一建設工業長野支店	長野小売酒販組合	長野ロータリークラブ	萬佳亭
岸クリニック	第一法規	長野国際親善クラブ	中村建築研究所	宮本忠長建築設計事務所
北野建設	泰和	長野市区長会	中山法律事務所	明和印刷
倉田博光会計事務所	タカチホ	長野市設計協会	夏目	元善町
小池新聞店	高野総本店	長野市電設業協会	日新電機製作所	山口司法書士事務所
国際ソロブチミスト長野	滝沢無線	長野市PTA連合会	日本通運長野支店	山本写真機店
国際ソロブチミスト長野みすず	長印	長野市文化芸術協議会	日本機材	八幡屋磯五郎
小林歯科医院	鶴賀病院	長野酒造協会	日本電設工業長野支社	
西條被服	テレビ信州	長野商工会議所	日本旅行長野支店	
信濃毎日新聞社	電算	長野商店会連合会	野村證券長野支店	
篠ノ井商工会議所	東邦商事	長野市連合商工会	八十二銀行	
シューマート	長野朝日放送	長野信用金庫	八十二文化財団	
信越定期自動車	ながの観光コンベンションビューロー	長野青年会議所	福澤商店	
信州経済同友会	長野北ロータリークラブ	長野設計協同組合	藤森建設工業	

(50音順)

平成18年4月現在 ※表記等で間違いや訂正などございましたら事務局までご連絡下さい。

編集後記

当会の活動も小坂文部科学大臣への訪問やパネル展等、多方面にPRする場が増えてきております。特にパネル展におけるパンフレットの持ち帰りの多さは、一般の方の関心の高さを象徴していると思われます。サポーター登録の問い合わせも徐々に増えてきており、今後の展開の反響もとても楽しみです。(事務局 松本)